

大腿骨近位部骨折後の高齢女性における部位別骨密度と年代差

所属：青森県立保健大学院

職位・氏名：斎藤 拓弥

I. 研究概要

本研究では再骨折のリスクが高い大腿骨近位部骨折後の高齢女性を対象に、部位別骨密度を年代別で比較した。Dual Energy X-ray Absorptiometry (Horizon Ci, Hologic Inc., USA) を用い、頸部、転子部、転子間部、Ward's 三角の骨密度を測定し、Young Adult Mean 値^{*1}を算出した。

【用語説明】

^{*1} Young Adult Mean value (YAM 値): 若年成人の骨密度の平均を 100%とした時、測定した骨密度を百分率で表す。

^{*2} 海綿骨: 骨の内側部にある網目状の組織で、緩衝作用を有する。

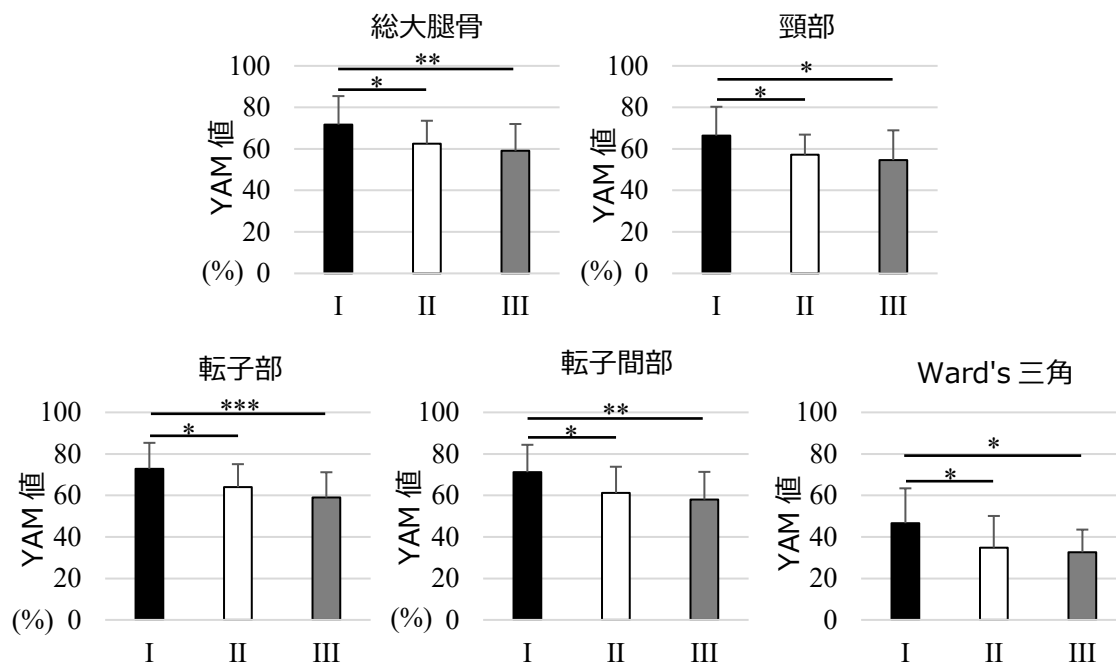


Fig. 部位別の大腿骨骨密度のYAM 値

I: 65~79 歳, II: 80~89 歳, III: ≥90 歳. *: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.001$.

YAM 値: Young Adult Mean. 群間比較は一元配置分散分析、有意差が認められた場合には、事後検定として Scheffé's の多重比較を実施した。

II. 今後の展開

本研究の限界として、横断研究、対象者が少ない点が挙げられる。また、骨密度に関連する骨代謝マーカーや骨粗鬆症薬の服薬歴といった交絡因子のデータを収集し、共分散分析にて部位別骨密度の特性について検討する。今後、骨粗鬆症に関連する国際学会での発表や論文投稿を予定している。

III. 論文情報

雑誌名 : The Journal of Physical Therapy Science

論文タイトル : Site-specific bone mineral density and age strata in older women with proximal femur fractures

著者 : 斎藤拓弥 ^{1,2)}, 杉本一生 ^{1,3)}, 木村勇吾 ^{1,4)}, 近藤郁江 ^{1,5)}, 小川純果 ¹⁾, 吉田司秀子 ⁶⁾, 布村倫仁 ⁶⁾, 板垣篤典 ⁷⁾, 李相潤 ^{1,6)}

¹ 青森県立保健大学大学院

² 松田病院リハビリテーション科

³ 青森県立中央病院

⁴ 国立病院機構釜石病院

⁵ 目白大学保健医療学部言語聴覚学科

⁶ 青森県立保健大学理学療法学科

⁷ 東京都立大学理学療法学科

DOI : <https://doi.org/10.1589/jpts.38.454>

Key Words ①大腿骨近位部骨折 ②骨密度 ③年代別

IV. お問い合わせ先

青森県立保健大学 キャリア開発・研究推進課 事務担当

E-Mail : kyariken@ms.auhw.ac.jp

TEL : 017-765-4085